

V. 地域別分科会「北ユーラシア・中央アジア・極地（含むヨーロッパ）」
「ロシアとネパールでの永久凍土調査の体験談」

国立極地研究所・福井幸太郎

①ロシア・アルタイ，②カムチャッカ，③ネパール・ヒマラヤで実施した永久凍土や氷河観測について，ビザ，現地の様子や治安，費用などについて話題を提供した．以下に要約を記す．

①ロシア・アルタイの永久凍土調査．

- 調査目的：2003～2005年8月にかけて3回，ロシア・アルタイ山脈で永久凍土の調査を実施．日本人の参加は1～2名．
- カウンターパート：オビ川沿いの都市バルナウルにあるアルタイ州立大学．
- ビザ：招聘状をカウンターパートに発行してもらい業務用ビザを取得．招聘状発行までに大体2ヶ月かかる．ビザ自体は数日で発行．滞在期間や滞在地域は制限される．
- 経路：モスクワ経由でバルナウル入り．測量機材，気象測器やGARMINのGPSは申請無しで持ち込みOKだった．
- 現地の様子や治安：バルナウルは人口60万都市．商店，レストラン，ホテルは豊富にあり，日本の地方都市並みに商品は入手可能．ただし，日本で入手可能なガイドブック（例えばロンリープラネット）には地図などの情報が無い．モスクワよりも治安は良い．調査地のアッコール谷はバルナウルの南700kmに位置しロシア国境地域．カウンターパートがゲートの村で国境警備隊に許可申請．
- 費用：3週間の合計：3000ドル程度（日本人1名参加）．米ドル現金払い．旅費の宿泊費と日当から支払っている．

②カムチャッカ

- 調査目的：2002～2003年9月に2回カムチャッカ半島中央部エツソ村周辺で永久凍土の調査実施．北海道大学低温科学研究所と合同．日本人2～5名参加．
- 経路：新潟発ウラジオストク経由でカムチャッカ州の州都ペトロパブロフスク・カムチャッキーへ．ウラジオストク航空利用．ビザ関係や機材の持ち込みはアルタイと同様．
- カウンターパート：ペトロパブロフスク・カムチャッキーの国立カムチャッカ生態研究所．
- 現地の様子や治安：ペトロやエツソ村の治安は悪くない．ただし，気象ステーション設置の際にFSB（旧KGB）が監視料を要求，300ドル支払うという事件があった．村の裏山にもクマが多数出没．野外調査時にはクマ避けスプレーや発煙筒は必携．
- 費用：3週間の合計（日本人5名参加）：4000ドル程度．米ドル現金払い．

③ネパール・ヒマラヤ

- 調査目的：2001年12月と2004年10月に2回，エベレスト山麓のクンブ地域で山岳氷河と永久凍土の調査。名古屋大学と共同観測。日本人参加2～5名。
- ビザ：3ヶ月までならツーリストビザを空港で取得可能。
- カウンターパート：カウンターパートはネパール水文気象局（DHM）。現地でのポーターの確保，宿泊の手配，物資の輸送などはカトマンズのトレッキング会社に依頼。
- 機材の持ち込み：GPSや気象測器，測量機器の持ち込みは申請なしでもOK。
- 治安：1996～2007年までネパール共産党毛沢東主義派（マオイスト）と国王派の間で内戦状態。カトマンズでは交通機関や商店が頻繁にストライキ（バンド）。カトマンズ市内とクンブ地域だけは調査可能な治安状態。01年の方が04年より治安が悪かった。2001年には途中のシェルパ村ナムチェバザールで夜間外出禁止令（curfew）が発令。
- 費用：2ヶ月間の合計（日本人5名参加）：10000ドル